

研究課題

ICTの活用により，地域を愛し，異文化を理解し，
チャレンジ力を育てる，外国語学習を生み出す試み

副題

～ひとつの市から地球市民を育てるための，
DVD教材の共同開発と活用～

キーワード

外国語活動 DVD教材 ALT

学校名

我孫子市教育委員会 教育総務部指導課

所在地

〒270-1166
千葉県我孫子市我孫子1684

ホームページ
アドレス

<http://www.city.abiko.chiba.jp>

1. 研究の背景

我孫子市は，平成21年度に学校 ICT 環境整備事業により，すべての普通教室に50型デジタルテレビを配置し，平成25年度にはタブレット型コンピュータを全小中学校に6台ずつ配置し，ICT 環境を整備しつつある。また，市では小中一貫教育を推進し，「外国語・外国語活動」や「ふるさとカリキュラム」等のカリキュラム作成・活用に取り組んでいる。「外国語・外国語活動」では，教材作成にALT（外国語指導助手）が積極的に関わっている。平成25年に外国語活動向けに，音声教材フォニックス DVD と ALT 紹介ビデオを作製し，26年度はフォニックス DVD 第2弾を作製した。各小中学校では，デジタルテレビやコンピュータなどのICTを生かした外国語活動の授業を行っている。

2. 研究の目的

日本は，EFL（外国語としての英語）の言語環境であるため，授業では使用場面のイメージ作りが大切になる。ICTを使うことで，自然で身近な場面設定ができ，子どもたちに具体的なイメージを持たせることが可能となる。小学校で英語に慣れ親しませ，中学校で自信を持ってコミュニケーションができるようにしたいと考える。そこで，次の3つの力を育てたい。「郷土愛」「異文化理解」「チャレンジ力」である。具体的には，市の名所をALTが自然で簡単な英語で紹介する動画を提示し，ふるさとのよさを再発見させ「郷土愛」を育むこと，市内ALTの祖国の様子を写真や動画で紹介し「異文化理解」を図ること，ゲームや歌，アクティビティを具体的に動画で見せることで，どの子にもわかりやすいものにし，やってみたいと思わせ「チャレンジ力」をつけることである。外国語活動に不安を持つ教職員にも，地域に根差した楽しくわかりやすい共通教材を使用することで，安心してALTとのチームティーチングに臨めると考える。

3. 研究の方法

- 指導用DVDの内容の構想づくりと撮影をする。市の「外国語・外国語活動カリキュラム」の指導案集を基に，「道案内」や「レストランでの食事」の指導用DVDを作製する。英会話の場面を，ALTがデジタルビデオを用いて撮影する。その映像の場面は，子どもたちに馴染みのある市内の鳥の博物館や老舗料亭を選定する。
- 指導用DVDを用いた授業実践を学級担任とALTのチームティーチングによって行う。

授業の終わりに、「振り返りカード」により授業のフィードバックを取り、DVDの内容の改善を図る。そして指導用DVDを使った外国語活動の指導案を市のカリキュラムの別冊として作成する。

本研究により、外国語活動においてICTの活用により、映像を見せることで場面のイメージを明確にし、どの子も「わかる、できる」と感じ、「もっと話したい」「外国に行って活躍したい」という「チャレンジ力」つまり夢や希望を育てることを期待している。また、ALTが市の見慣れた名所で会話をする様子や祖国の様子を紹介する姿をICTを通じて見ることで、自分たちの住む町のよさを見直し、ふるさとを愛し誇りに思う気持ち（「郷土愛」）を持ち、地球市民として国を超えて人と人がつながることの楽しさ（「異文化理解」）を感じてほしい。

4. 研究の内容・経過

○指導用DVDやパソコンを活用した授業実践

第6学年 LESSON 5 道案内 DIRECTIONS

(ICT活用版) 単元名 Where is the Bird Museum?

単元のねらい

- ・街中の建物を表す表現に慣れ親しむ。
- ・道案内の仕方に慣れ親しむ。
- ・ICTを活用しながら英語活動の中で自分のふるさとに興味を抱く。

評価基準

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (コ)	外国語への慣れ親しみ (慣)	言語や文化に関する気付き (言)
評価規準	・積極的に友達が行きたい場所に案内し、自分の行きたい場所を表現しようとしている。	・道案内で使う表現に慣れ親しむ。	・建物の言い方や案内の仕方について、英語と日本語の違いに気付く。

指導計画 (4時間扱い)

時	学習活動の主な内容	表現・単語／※指導の留意点	評価
1	【Warm up】 ○ 復習 (何時に～をする?)	街の建物を英語で言ってみよう。 What time do you get up? I get up at 6:00. hospital, bookstore, restaurant, department store, fire station, train station, police box, flower shop, post office, park, school, bus stop ※児童のサポートをする。 ※アクティビティでクラスを回ってチェックする。	(言)
	【Introduction】 ○ 導入：街の中の物 *フラッシュカード ※最初に、ALTに発音をしっかりと聞く。		
	【Practice】 ○ 反復練習：練習して、覚えるようにする。		
	【Activity 1】 ○ 建物カルタ：グループでカルタをやる。カードを取ったら必ず英語で言う。 <Hi, friends!2, p.47,49 巻末児童用絵カードと我孫子の名所>		

	<p>【Activity 2】</p> <p>○ボーリングゲーム：グループでボーリングをやる。建物を英語で言ってから投げる。</p>		
	<p>【Conclusion】</p> <p>○ まとめと振り返り：街の中の物の言い方の確認</p> <p>○ALT の国ではあまり街に見かけない物、必ずある物を聞いてみる。</p>		

時	学習活動の主な内容	表現・単語／※指導の留意点	評価
2	<p>【Warm up】</p> <p>○ 復習（街の中の物）</p>	<p>英語で道案内しよう。</p> <p>hospital, bookstore, restaurant, department store, fire station, train station, police box, flower shop, post office, park, school, bus stop</p> <p>Go straight. / Turn right. / Turn left.</p> <p>※児童のサポートをする。</p> <p>T: Mission 1: Let's go to the blackboard. Let's go to the window. など指示をだす。</p>	(慣)
	<p>【Introduction】</p> <p>○ 導入：案内で使う表現 *フラッシュカード</p> <p>※最初に、ALT に発音をしっかりと聞く。</p> <p>○ 実際の写真を見ながら、道案内の表現を知る。</p>		
	<p>【Practice】</p> <p>○ 反復練習：練習して、覚えるようにする。</p>		
	<p>【Activity】</p> <p>○ クラスで案内ゲーム：子供たちはゴールまで友だちを案内する。</p>		
	<p>【Conclusion】</p> <p>○ まとめと振り返り：案内で使う表現の確認</p> <p>○ ALT の国によくある街のパターンを聞く。</p>		

時	学習活動の主な内容	表現・単語／※指導の留意点	評価
3	<p>【Warm up】</p> <p>○ 復習（案内）</p>	<p>我孫子市の地図を作ろう。</p> <p>Go straight. / Turn right. / Turn left. / It's by the ~. / It's in front of the ~.</p> <p>ALT: Excuse me. HRT: Yes? ALT: Where's the bank? HRT: OK, go straight... ALT: Thank you. HRT: You're welcome.</p> <p>※児童のサポートをする。</p> <p>※ゲームで児童たちと一緒にやって発音などのチェックをする。</p>	(慣)
	<p>【Introduction】</p> <p>○ 導入（道案内）：スキットを見る。</p> <p>○ 言い方の見本を見る。</p>		
	<p>【Practice】</p> <p>○ 反復練習：練習して、覚えるようにする。</p>		
	<p>【Activity】</p> <p>○ マイシティを作ろう：市内の地図に入りたい物（郵便局、銀子など）を選んで、友だちに「Where's the ~?」と聞いて、答えた場所に絵を描く。</p> <p>○ ※Hi, friends!2, p.47,49 巻末児童用絵カード</p>		
	<p>【Conclusion】</p> <p>○ まとめと振り返り：道案内の言い方の確認</p>		

時	学習活動の主な内容	表現・単語／※指導の留意点	評価
4	<p style="text-align: center;">【Warm up】</p> <p>○ 復習（案内）①スクリーンで ALT と ②パソコンで（指示と同じ矢印を 選ぶ。ペア活動）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <hr/> <p style="text-align: center;">【Introduction】</p> <p>○ 導入（道案内）：スキット （オリジナルビデオ Where is the Bird Museum?）を見る</p> <p>○ 言い方の見本を見る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <hr/> <p style="text-align: center;">【Practice】</p> <p>○ 反復練習：練習して，覚えるようにする。</p> <p>○ 建物の言い方の復習をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <hr/> <p style="text-align: center;">【Activity】</p> <p>○ 我孫子案内ゲーム ①ビデオをみてやり方を知る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">我孫子を道案内しよう</p>	(コ)

<p>②パソコンでペア活動をする。</p> <p>カードを引き「Where's the ~?」と聞いて、友達が道案内をする。案内されたとおりにマウスをドラッグして目的地に行く。交代で繰り返す。</p>	<p>A: Excuse me. B: Yes? A: Where is the post office? B: OK, go straight. Turn L/R at the second corner..... It's on your L/R. It's near the school. A: Thank you! B: You're welcome.</p>	
<p style="text-align: center;">【Conclusion】</p> <p>○ まとめと振り返り：道案内の言い方の確認</p>		

○その他，作成したDVD教材

・市内老舗料亭を用いてのDVD教材作成



・市内の江戸時代の舟運の歴史アニメ作成



5. 成果と課題

成果

児童から

授業後アンケートより

「習ったことを使って質問することができましたか？」→「とてもよくできた」93%

「習ったことを使って答えることができましたか？」→「とてもよくできた」98%

「友達と楽しく会話できましたか？」→「とてもよくできた」100%

教員から

我孫子市を利用した教材は良いと思いましたが？→「そう思う」100%

ICT機器で英語の授業を見るのは初めてだが，目標が分かりやすいと感じた。

子ども達が意欲的だった。場面によってICTの活用があると子ども達の興味関心が深まると思う。

ALTより

児童の反応がとても良かった。道案内の会話がどのペアもしっかりできて，相手を目的地まで案内することができた。振り返りがパソコンを使ってスムーズに行われた。パソコンを使用しても，ペア同士又は先生やALTとふれ合い，英会話をすることができた。パソコンを使うことで児童の英語での発言が多かった。ICTと会話のバランスがよかった。地元という設定が子供たちにとって身近な内容だった。



課題

- ・初めはタブレット端末を利用する計画を立てたが、実際には各学校の体制によって整備状況が異なり、市内全てで同じような授業をすることが難しくパソコンを使用することになった。
- ・タブレットを使用した経験がない児童が多かったので、操作そのもので混乱し、授業の流れがうまく進まない状況となった。このような際に、パソコンなら先生用の管理パソコンで児童に一斉にロックできるが、タブレットではできないなどのマイナス面もわかった。そのため最終的にパソコンで授業を行った。
- ・インストールの準備時間などかなりかかったことや、市内のパソコンの管理体制によってそのままプログラムを保存することも不可能だった。

6. 今後の展望

今回の実践指導は、限られた単元の中であったが、作成した映像教材やアクティビティ教材は子ども達から高い評価を得ることができ、英語を使って我孫子のことを勉強したいという気持ちを引き出すことができた。また、これまで主導的に外国語活動を行うことに自信が持てない担任が、作成した教材を使うと積極的に主導できる可能性がおおいにあることがわかった。そして ALT は映像教材を作成することで我孫子について知る機会となり、それを見た教師は、我孫子の新しい知識や魅力を得る機会にもなった。ふるさと教材は、子ども達だけでなく、ALT や教師にとっても身近で興味を持てるものであると考えられる。

このことから、今後も ALT を中心としてふるさとを素材とした ICT 教材を作成し、それを活用していくことで、教師の英語運用能力の向上を図っていく。また、グループウェアシステムを使用して、作成した教材を共有して改善していく。このように ALT の力を生かしながら ICT を活用し、担任を補助していきたい。そして担任が自信を持って授業を進められるようになることで、子ども達の英語へのチャレンジ力や郷土愛も高まっていくようにしていきたい。

その他、ICT の活用が授業のゴール（目標）を見通し易くし、英語表現も活発にできるなど、一定の効果を出すこともわかったので、市内 ICT 環境整備が進む中で、子ども達に合ったより良い活用方法、活用場面も合わせて考えていきたい。

< 参考文献 >

- ・我孫子市教育委員会編 2015 我孫子市小中一貫カリキュラム「Abi-English」
- ・文部科学省、2008「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」東洋出版社
- ・西垣知佳子 山下美峰 小林喜美子 田村敦、2012「ふるさと教育を取り入れた外国語活動の試みー英語「浦安ふるさとカルタ」の試作と実践ー」
- ・みんなのアルバム同好会、2004「我孫子ーみんなのアルバムー」
- ・千葉県立中央博物館、「写真集 利根川高瀬舟」